

インストラクショナルデザイン専門家職能に関する調査

A Web-based Survey on Instructional Design Competencies

鈴木克明^{*1} 根本淳子^{*1} 合田美子^{*1} ティファニー・コザルカ^{*2}

Katsuaki SUZUKI Junk o NEMOTO Yoshiko GODA Tiffany A. KOSZALKA

熊本大学大学院^{*1}

シラキュース大学^{*2}

Kuma moto University, JAPAN

Syracuse University, U.S.A.

＜あらまし＞ ibstpi[®]は、インストラクショナルデザイン職能標準（2001 版）を改訂するために Web 調査を実施した。日本語版への有効回答 65 件を英語版への有効回答 601 件とを比較した結果、22 の職能と 105 のパフォーマンス記述に対する日本語版回答者の重要度評価得点は全体的に低いものの英語版での評価と比較的類似した傾向を示した。

＜キーワード＞ ibstpi[®], インストラクショナルデザイン, 職能, 調査

1. 研究の目的と方法

International Board of Standards for Training, Performance and Instruction (ibstpi[®])は、インストラクショナルデザイン (ID) 専門家の職能標準を 2001 年に公表した（鈴木ほか 2007）。それを改訂するために Web 調査を実施している。本報告は、日本語版調査から得られた結果の概要を英語版調査との比較により報告し、我が国における ID の状況把握を目的としたものである。英語版は第四著者をリーダーとしたワーキンググループで起案されたもので、それを第一著者が日本語訳し、第二・三著者が独立して英語に訳して持ち寄り、三者で最終的な日本語訳を確定した。SurveMonkey 社の Web 調査を利用して ID 関連のメーリングリスト (ID マガジン・SEA-SIGEDU・日本イーラーニングコンソシアム) にて協力を呼び掛けた。

2. 結果と考察

日本語版への有効回答 65 件を英語版への有効回答 601 件と比較した結果、22 の職能

と 105 のパフォーマンス記述に対する日本語版回答者の重要度評価得点は全体的に低いものの英語版での評価と比較的類似した傾向を示した。図 1 に日本語版の各コンピテンシーに対する重要度評価の結果を示す。英語版と比較すると、日本語版の回答の方が、自身の知識・スキルを更新・向上することや研究や理論を応用するという専門家基礎のコンピテンシーを高く評価している一方で、教育的介入の設計やニーズアセスメントの実施、プロジェクトの計画・管理といった実務的なコンピテンシーの重要度をより低く評価している傾向が読み取れた。コンピテンシーを支えるパフォーマンス記述（表 1）についても同様な結果が得られた。

参考文献

- 鈴木克明・根本淳子・松葉龍一（2007.9）「教授システム学専攻修士生コンピテンシーの外的妥当性」『日本教育工学会第 23 回講演論文集』915-916
- Richey, R., Fields, D., Foxon, M. (2001) *Instructional Design Competencies : The Standards* (3rd Ed) ERIC Clearinghouse on Information and Technology, Syracuse, NY.

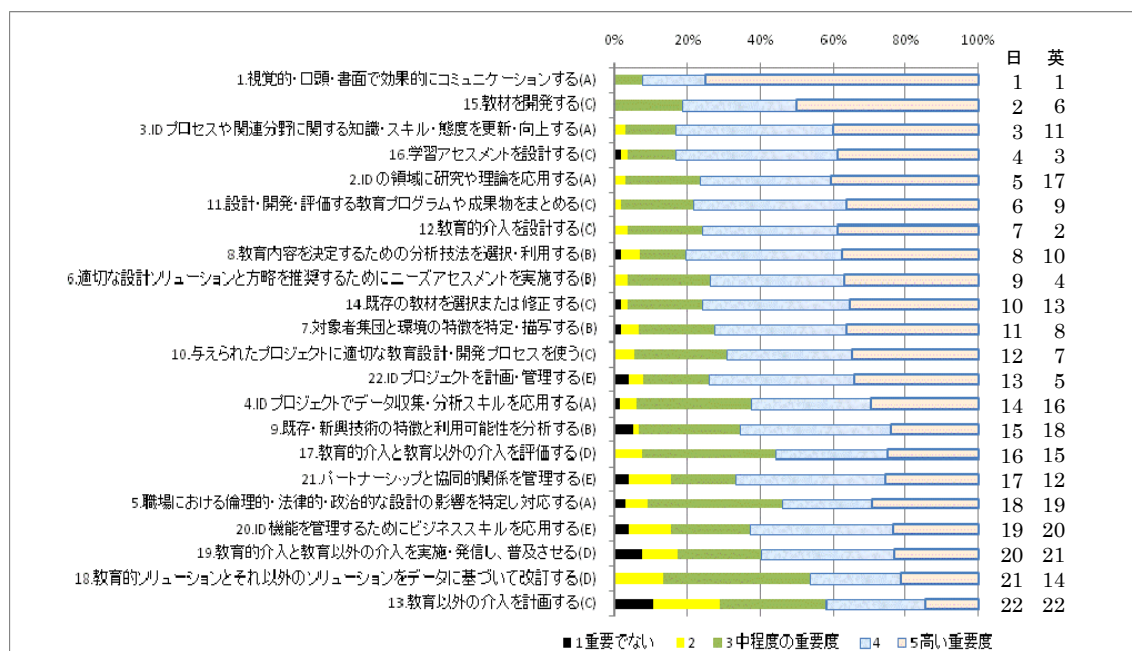


図1：インストラクショナルデザイン・コンピテンシーの重要度評価（日本語版調査、N=51～65）

注：重要度の平均得点順に並べ替えたもの。左端の数字は、調査時のコンピテンシー番号を示す。

(A)～(E)は次の領域を示す。(A) 専門的基礎、(B) 計画と分析、(C) 設計と開発、(D) 実施と評価、(E) 管理

*日は日本語版の重要度評価順位、英は英語版（N=479～601）の重要度評価順位を示す。

表1：パフォーマンス記述の重要度平均点の低い項目

順位	職能	パフォーマンス記述	平均（日）	平均・順位（英）
1	20	e) ID 機能についての財務計画と財務管理をつくる	2.69	3.46 1
2	13	c) 教育以外の介入の設計仕様書を作成する	2.91	3.47 2
3	20	g) ID サービスを売り出し、顧客との関係を管理する	3.18	3.63 4
4	13	b) 教育以外の介入がなぜ適切かを正当化する	3.18	3.70 6
4	13	a) 用いるとすればどの教育以外の介入が適切かを特定する（業務遂行支援、知識管理、人材選択、職務再設計、報奨システム等）	3.18	3.77 11
6	19	e) 実施した介入について発信する	3.27	3.76 9
7	3	d) 将来の取り組み・出版・専門家としてのプレゼンテーションの基盤としてやっていることをドキュメント化し、広く発信する	3.29	3.59 3
8	6	f) ニーズアセスメント報告を準備し、広く発信する	3.36	4.00 29
9	19	f) 実施・発信・普及の進捗状況をモニターする	3.37	3.77 10
10	19	d) 実施した介入を普及させるための計画を立てる	3.38	3.78 12
10	19	c) 実施した介入について発信するための計画を立てる	3.38	3.84 14
12	20	c) ID 機能が重要な役割を担うことを周知させるビジネス事例を開発する	3.43	3.73 8
13	19	g) 実施・発信・普及のプロセスに必要な修正箇所を特定する	3.44	3.84 13
14	21	a) 利害関係者とそれぞれの関与の特質を明らかにする	3.45	4.22 64
15	20	f) ID 機能への管理職や利害関係者からの支援を獲得・維持する	3.49	3.95 20
16	5	a) ID の実践や成果の倫理的・法的・政治的な側面を特定する	3.49	3.97 25

注：22の職能（コンピテンシー）を支える合計105のパフォーマンス記述についての重要度を得点の低い順に並べた。平均点3.5未満の項目のみ。順位（英）は英語版への回答を同様に順位付けしたもの（低得点順）。